

- 問1 1221年、源実朝が暗殺された後の鎌倉幕府の混乱に乗り、朝廷の政治的権力を取り戻すために幕府を倒そうと兵を挙げた人物は誰か。 (2016年 和歌山県公立入試 類似)
1. 足利尊氏 2. 後醍醐天皇 3. 後鳥羽上皇 4. 白河上皇
- 問2 日本の歴史における時代区分において、奈良時代や平安時代などの「古代」の次にあたり、江戸時代などの「近世」の前に位置する区分を何と言いますか。 (2016年 山形県公立入試 類似)
1. 現代 2. 先史時代 3. 近代 4. 中世
- 問3 1297年に鎌倉幕府が発令した「永仁の徳政令」について、この法令が出された背景とその内容を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 高知県公立入試 類似)
1. 全国の公家や寺社に対して、幕府への忠誠を誓わせる代わりに土地の所有権を認めた。 2. 元寇による軍役負担で困窮した御家人を救うため、質入れ・売却した土地の無償返還などを命じた。 3. キリスト教の布教を制限し、幕府が貿易を独占することで財政を立て直そうとした。 4. 北条氏による執権政治を強化するため、御家人たちが独自の裁判を行うことを禁止した。
- 問4 鎌倉時代の市場の様子を描いた絵巻物には、武士や商人、庶民が入り乱れる喧騒の中で、人物が太鼓をたたきながら踊り、熱狂的に念仏を広めている場面が見られます。この背景にある、当時の宗教活動の様子を説明したものとして適切なものを選びなさい。 (2019年 秋田県公立入試 類似)
1. 一遍は、市場のような多くの人々が集まる場所を活動の拠点とし、踊りを取り入れた念仏によって時宗を広めた。 2. 日蓮は、蒙古襲来の危機に際して、幕府の要人が集まる儀式の場でのみ自身の教えを説き続けた。 3. 法然は、知恩院を拠点として修行に励むことを重視し、特定の場所でのみ念仏を唱えることを許した。 4. 行基は、奈良時代の市場の整備とともに、橋の建設や布教を同時に行うことで、民衆からの支持を集めた。
- 問5 鎌倉時代に興った新しい仏教の一つで、日蓮が説いた教えについて述べたものとして正しいものはどれですか。 (2014年 和歌山県公立入試 類似)
1. 阿弥陀如来の救いを信じ、念仏を唱えることが最も大切だと説いた。 2. 全国に国分寺を建て、国家の平和を祈ることを説いた。 3. 座禅を組むことで自ら悟りを開くことを説いた。 4. 法華経こそが最高の教えであると、題目を唱えることを説いた。
- 問6 北条氏が実権を握った鎌倉時代の政治において、第3代執権の北条泰時が、御家人同士の土地をめぐる紛争などを公平に裁決するための判断基準として定めた法律は何ですか。 (2026年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 憲法十七条 2. 大宝律令 3. 武家諸法度 4. 御成敗式目 (貞永式目)
- 問7 11世紀末から13世紀にかけて断続的に行われた十字軍の遠征は、日本の歴史におけるどの時期の出来事と重なりますか。当時の日本の状況として最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 沖縄県公立入試 類似)
1. 遣隋使や遣唐使の派遣が盛に行われ、大陸の進んだ文化を取り入れながら律令国家が形成されていた時期にあたる。 2. 平安時代末期の院政期から、鎌倉幕府の成立を経て、蒙古襲来 (元寇) が起こった時期にあたる。 3. キリスト教が日本に伝来し、織田信長や豊臣秀吉によって天下統一が進められていた時期にあたる。 4. 足利義満が金閣を建立して日明貿易を推進し、室町文化が開花していた時期にあたる。
- 問8 承久の乱の前後における鎌倉幕府の支配範囲の変化について述べた説明のうち、地頭の任命に関する背景をふまえたものとして適切なものはどれですか。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)
1. 乱の以前は東国が中心だった幕府の支配力が、乱後の地頭任命を通じて西日本にも及ぶようになった。 2. 乱の結果、幕府は地頭の制度を廃止し、六波羅探題がすべての領地の管理を行うこととした。 3. 源頼朝が守護・地頭を設置した時点で、すでに西日本のすべての荘園に地頭が配置されていた。 4. 没収された土地には、東国の御家人ではなく京都に住む朝廷側の武士が地頭として再任された。
- 問9 源頼朝の妻である北条政子が、承久の乱に際して御家人たちに対し、初代将軍の恩義を説いて幕府側の団結を促したエピソードは有名です。この時期に、政子の弟である北条義時らが就いていた、幕府の政治を実質的に動かす中心的な役職について説明した文として正しいものはどれですか。 (2024年 宮崎県公立入試 類似)
1. 荘園や公領ごとに置かれ、土地の管理や年貢の徴収を担った役職。 2. 将軍に代わって政治の実権を握り、幕政を統括した北条氏の役職。 3. 地方の国ごとに置かれ、軍事・警察や御家人の統制を担った役職。 4. 室町幕府において将軍を補佐し、政務全般を統括した最高職。
- 問10 鎌倉幕府が国ごとに設置し、謀反や殺人などの犯罪人を取り締まる警察・軍事的な職務を担った役職は何ですか。 (2026年 岩手県公立入試 類似)
1. 老中 2. 摂政 3. 守護 4. 管領
- 問11 鎌倉幕府の組織において、将軍の補佐役として政務を統括し、次第に幕府の実権を握るようになった役職を「執権」と呼びます。この役職を代々独占し、政治を動かした一族を選びなさい。 (2021年 秋田県公立入試 類似)
1. 平氏 2. 源氏 3. 足利氏 4. 北条氏
- 問12 1221年に後鳥羽上皇が幕府を倒そうと兵を挙げた「承久の乱」に際し、北条政子が御家人たちに対して行ったこととして、最も適切な説明はどれか。 (2024年 新潟県公立入試 類似)
1. 朝廷との対立を避けるため、執権の地位を後鳥羽上皇に返還することを提案した。 2. 自ら武装して戦場に立ち、京都の軍勢を圧倒する戦果を挙げた。 3. 源頼朝が武士に与えた「御恩」を強調して演説し、幕府側の団結を促した。 4. 武力での抵抗を諦め、御家人たちに新しい領地を与えて地方へ逃亡させた。
- 問13 韓国の新安沖で発見された沈没船から、当時の荷札である大量の木簡や、中国から持ち込まれたと思われる大量の銅銭、陶磁器が発見されました。これらの遺物は、元寇が行われていた時期の東アジアにおける交流の様子について、どのような事実を証明していますか。 (2025年 北海道公立入試 類似)
1. 新羅の商人を仲介役とした、朝貢形式の貿易が継続されていた 2. 商人の活動を中心とした、活発な民間貿易が行われていた 3. 幕府主導の貿易により、大陸との交流が完全に管理されていた 4. 元との戦争の影響で、大陸との経済的な交流は完全に途絶えていた

答え合わせ・解説

問1	答え 3 後鳥羽上皇	鎌倉幕府の3代将軍・源実朝が亡くなり、幕府の基盤が揺らいでいると考えた後鳥羽上皇が、朝廷の権力回復を目指して起こした戦いが承久の乱である。この戦いに幕府側が勝利したことで、武士による支配が西日本まで強く及ぶようになった。後醍醐天皇は、後の時代に鎌倉幕府を滅ぼした人物であるため混同に注意が必要である。
問2	答え 4 中世	日本の歴史は一般的に、古代・中世・近世・近代・現代という大きな枠組みで区分されます。平安時代の末期から武士が政治の実権を握り始め、鎌倉時代や室町時代へと続く時期がこの区分に該当します。古代の貴族社会から、近世の幕藩体制へと移り変わる中間的な役割を担っています。
問3	答え 2 元寇による軍役負担で困窮した御家人を救うため、質入れ・売却した土地の無償返還などを命じた。	鎌倉幕府の基盤は、将軍からの「御恩（土地の保証）」と御家人の「奉公（軍役）」という主従関係にありました。しかし、元寇の防衛戦では十分な恩賞が与えられず、生活に窮した御家人が土地を売る事態が相次いだため、幕府は主従関係を維持するためにこの法令を強行しました。
問4	答え 1 一遍は、市場のような多くの人々が集まる場所を活動の拠点とし、踊りを取り入れた念仏によって時宗を広めた。	一遍の活動は「一遍上人絵伝」などの史料に詳しく描かれています。当時の経済の中心地であった市場（市）は、多様な階層の人々が集まる場であり、そこで「踊り念仏」を披露することは、時宗が急速に全国へ広まる大きな要因となりました。選択肢に含まれる行基は奈良時代の人物であり、時代の混同に注意が必要です。
問5	答え 4 法華経こそが最高の教えであるとし、題目を唱えることを説いた。	鎌倉新仏教の一つである日蓮宗（法華宗）は、日蓮によって開かれました。彼は他の宗派を厳しく批判し、釈迦の説いた「法華経（ほけきょう）」こそが真実の教えであると主張しました。修行として「南無妙法蓮華経」という題目（だいもく）を唱えることで、苦難の多い社会においても人々が救われると説いたのが大きな特徴です。
問6	答え 4 御成敗式目（貞永式目）	承久の乱の後、幕府の支配が西日本まで及ぶようになると、地頭と荘園領主の間などで土地をめぐるトラブルが急増しました。北条泰時は、頼朝以来の先例や武家社会の慣習をもとに、御家人が理解しやすい公平な裁判基準を設ける目的でこの法律を制定しました。これは日本初の武士による体系的な法律であり、後の時代の武家法の規範となりました。
問7	答え 2 平安時代末期の院政期から、鎌倉幕府の成立を経て、蒙古襲来（元寇）が起こった時期にあたる。	十字軍の遠征が始まった11世紀末は、日本では白河上皇が院政を開始した時期と重なります。その後、12世紀末に鎌倉幕府が成立し、遠征の終盤にあたる13世紀後半には元寇が発生しています。世界史における中世ヨーロッパの大きな動乱と、日本における武士の台頭から武家政権の確立までの時期はほぼ並行しています。
問8	答え 1 乱の以前は東国が中心だった幕府の支配力が、乱後の地頭任命を通じて西日本にも及ぶようになった。	源頼朝が1185年に守護・地頭を設置した当初、その支配権は東国や平氏の旧領などに限られていました。しかし、1221年の承久の乱において朝廷側の領地を大規模に没収し、そこへ東国の御家人を地頭として送り込んだことで、幕府の影響力は全国規模へと拡大しました。このように、地頭の再配置は幕府の支配体制を西日本まで浸透させる決定的な要因となりました。
問9	答え 2 将軍に代わって政治の実権を握り、幕政を統括した北条氏の役職。	北条氏は執権として幕府の最高権力を掌握しました。承久の乱において、北条政子の訴えにより結束した御家人たちが朝廷軍を破ったことで、執権政治の支配力は西日本まで拡大し、さらに強固なものとなりました。他の選択肢は守護、地頭、および室町時代の管領の説明です。
問10	答え 3 守護	鎌倉幕府によって国ごとに設置され、謀反人や殺人犯の逮捕など警察・軍事的な職務を担当した役職は守護です。管領は室町時代の幕府の役職、老中は江戸時代の役職、摂政は飛鳥時代や平安時代などに天皇を補佐した役職です。
問11	答え 4 北条氏	鎌倉幕府では、初代将軍である源頼朝の死後、妻の政子の実家である北条氏が台頭しました。北条氏は将軍を助ける「執権」という役職に就き、有力な御家人を退けることで、実質的な政治の全権を掌握する執権政治を確立しました。
問12	答え 3 源頼朝が武士に与えた「御恩」を強調して演説し、幕府側の団結を促した。	承久の乱が起きた際、朝廷（上皇）に弓を引くことに迷う御家人に対し、北条政子は「亡き頼朝公の恩は山よりも高く、海よりも深い」と演説を行いました。この言葉により、御家人たちは幕府側として戦う決意を固め、結果として幕府の勝利と執権政治の安定につながりました。
問13	答え 2 商人の活動を中心とした、活発な民間貿易が行われていた	沈没船から見つかった大量の銅銭や木簡は、元寇という国家間の戦争があった時期においても、商人たちによる民間貿易が継続し、東アジア規模で活発な経済交流が行われていたことを示す重要な証拠です。当時は幕府が独占的に貿易を主導していたわけではなく、民間の力が大きな役割を果たしていました。